

ロービジョン支援センター便り

クローバー

秋田県立視覚支援学校
ロービジョン支援センター
平成28年9月16日発行
サマー特集号

「わが学校に光あれ」

教頭 大山 美香

「わが学校に光あれ」

これは、本校校歌3番の最後のフレーズです。

私は、この4月に視覚支援学校に着任し、始業式で初めてこの歌を聴いたとき、なんてたおやかに清らかなメロディーなんだろうと思い、すぐに好きになりました。式の終了後、歌詞を見直してみると、その内容にも感動しました。1番は「さわやかに流れる風は」、2番は「千秋の桜のかおり」、3番は「朝夕の鐘なりひびき」から始まります。読んでみると、五感が研ぎ澄まされるような心地がして、思わず胸一杯に空気を吸い込みました。7月31日に行われた同窓会では、参加者全員で校歌を合唱しましたが、歌い終わった後に、あちらこちらから「いい歌だなあ」というつぶやきが漏れていました。本当にいい歌です。

「光あれ」という歌詞を聴いたとき、私は、近江学園を創設した糸賀一雄さんの「この子らを世の光に」という言葉を思い出しました。どちらも、外から光を当てるのではなく、一人一人がもっている個性や能力といった光こそが大切であると説いていると思います。さらに、「わが学校に光あれ」は、視覚支援学校で学ぶ幼児児童生徒のみなさん一人一人が、それぞれのもつ光を輝かせることができるように、互いに輝き合うことができる社会となるように努めることが本校の使命であると我々教職員に示しているように思います。

本校は県内唯一の視覚支援学校です。教員の中には、歩行指導員、生活訓練等指導員、点字指導員の資格を有する者もあり、その他に、視能訓練士や視覚支援指導員も所属しています。そして何より、よりよい教育を行うために、教職員間で話合いや研修会をよく行っています。しかし、視覚障害教育のセンターとしての期待に応え、その責務を果たすためには、これで十分ということはありません。在籍する幼児児童生徒だけではなく、よつば教室、センター教室、あいサポート教室、県内3カ所のサテライト教室を利用しているみなさんが社会の中で唯一無二の光として輝くために、教職員一人一人の専門性やチームとしての力量の向上を目指し、不断の努力を重ねることが必要だと思っています。

「光あれ」というフレーズは、学校の創立100周年記念として石碑に刻まれ、校舎の南西の角に、様々な樹木と一緒に設置されています。校歌を聴くたび、そしてこの石碑に触れるたび、私たちは基本に立ち返り、視覚障害教育のセンターとしての名に恥じない学校であるよう、精一杯努めていきたいと思っています。



めのがっこうであそぼう！「ちびっこサマースクール2016」

8月3日（水）、0歳児から5歳児とその保護者、関係者の方を対象とした、「ちびっこサマースクール」が行われました。今年度は、乳幼児・保護者・関係者合わせて12名の参加がありました。また、宮城教育大学名誉教授の猪平眞理先生を講師にお迎えし、保護者・関係者の方々を対象とした個別相談も行いました。

2～5歳児のメインの活動は、「金魚すくい」。水に浮かぶ金魚のおもちゃをよく見て、道具を使ってすくいました。子どもたちは1匹でも多く金魚をすくおうと、道具を持つ手にもう一方の手を添えたり、バランスをとるためにゆっくり慎重にすくったり、時には手を使ったりして、楽しみながら活動しました。金魚すくいの後は、プールに入り、友達や先生と一緒にダイナミックに遊ぶ様子が見られました。



0～1歳児の活動では、室内での水遊びを行いました。遠くからチョロチョロと聞こえてくる水の音に誘われて、目的の場所まで移動した子どもたち。流れる水を触ったり、水が出てくる入れ物をじっくり見たり、水をボトルに入れてみたり、手を水の表面に沿わせてタプタプと感触を味わったりするなど、五感を使って水遊びを楽しみました。

保護者学習会は、「生活の中で“わかる”子どもを育てる工夫」というテーマで幼稚部主任より話題提供が行われ、家庭生活のどのような場面で子どもの概念形成を促すことができるかについて話し合いました。また、おすすめの書籍やおもちゃ、家庭でできる簡単な遊びの紹介も行われました。

宮城教育大学名誉教授、猪平眞理先生による個別相談では、保護者の方の子育ての悩みや疑問などに一つ一つ丁寧に答えていただきました。猪平先生と個別にお話できる機会を得られたことを喜ぶ保護者の方がとても多く、短い時間ではありましたが大きな満足感を得られたようでした。

ちびっこサマースクール全体を通して、子ども同士の交流や保護者同士のつながり、学校と関係機関のつながりも強まり、大きな成果が得られた夏の日となりました。



第12回 「サマースクール」

8月6日（土）、小学生とご家族、関係者の方を対象とした「サマースクール」を行いました。今回は、児童・保護者合わせて19名が参加しました。

児童の活動、午前中は、「五感ウォークラリー～宝をさがしだせ!～」、午後は、「調理活動」という内容で、視覚支援学校の校舎内を歩きながら、五感の部屋の課題に取り組みました。

「触る部屋」では、ブラックボックス内にある物にじっくりと触れて、感触からそのものを当てて、仲間外れの物は何か答えました。「分かった!これはトマトだ」「え～っ何これ?」同じチームの仲間と話し合いながら、答えを見つけることができました。「見る部屋」では、離れた場所から単眼鏡を使ってなぞなぞを読み、問題を解きました。久しぶりに会った友達、初めて会った友達と一緒に課題に取り組むことで、ウォークラリー終了後は、すっかり仲良くなった子どもたちでした。

午後は、午前中のウォークラリーで見つけた宝物（生クリーム、缶詰、ヨーグルト）を使ってひんやり冷たいパフェ作りに挑戦しました。自分で作るオリジナルパフェにみんな夢中になり、おいしくいただきました。

仲間との楽しい活動に、あっという間に時間が過ぎたサマースクールでした。

保護者研修会では、「運動」をテーマとした研修を行いました。暑い中でしたが、8名の保護者の方々が参加してくださり、午前中は、「みんなでできるボール運動」をテーマにシミュレーションレンズを付けながら、準備運動やキャッチボールなどに取り組みました。

見えにくい状態で運動に取り組む中で、言葉による具体的な指示が大事であること、また、見えやすいボールの色や天気による室内の明るさ、用具の色合いなど具体的な意見が出されました。午後からは、「本校職員による体験談」と保護者同士の意見交換を行いました。見えに

くさがある中で学習に取り組んだ経験のある職員の体験談から、色々な経験を積み重ねることが大事であること、運動の中で学ぶことが多いことなどの話がありました。意見交換では、午前からの活動の中で配慮があればできることが分かったので、スポーツに限らず色々な経験を積ませたいなどの意見もありました。

暑い中でしたが、気持ちのいい汗をかき、実りある研修会となりました。



～お知らせ～

「点字ブロック啓発活動」

日時：10月2日（日） 午前10時～正午

場所：にぎわい交流館AU周辺

内容：点字ブロック啓発ティッシュ配り

「秋田県特別支援学校 学校展」

日時：10月1日（土）～2日（日）

<1日> 正午～午後5時

<2日> 午前9時～午後4時

場所：にぎわい交流館AU

内容：特別支援学校作業製品の展示。学校紹介パネルの展示
視覚支援学校理療科あんま等体験コーナー など



「見えない・見えにくい子供のための 歩行指導Q&A」

監修：青木隆一 編著：全国盲学校長会 価格：2,300円+税

視覚障害教育関係者 必携! 視覚障害児・者の歩行指導の進め方の基礎・基本を、Q&A形式で理解することができます。視覚障害教育の現状と課題から実際の指導方法までが、分かりやすくまとめられています。



御相談のお問い合わせは

秋田県立視覚支援学校 ロービジョン支援センターへ御連絡ください。

相談支援担当 菊地雄平 佐藤加奈子 長崎雪子 落合久貴子

〒010-1407 秋田県秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3-127

TEL 018-889-8571 FAX 018-889-8575

E-Mail shikaku-s@akita-pref.ed.jp

